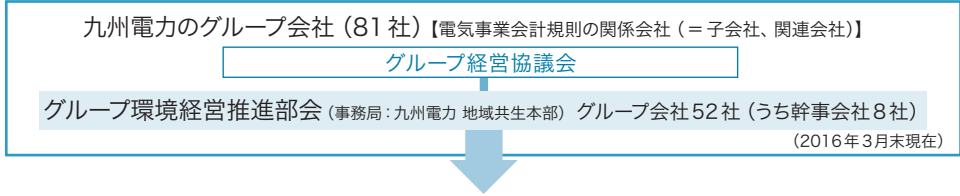


II グループ会社の環境経営

1. グループ環境経営推進部会

WEB 詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2 参照) > 九電グループ紹介



エネルギー関連事業 (29社) (● 幹事会社)

設備の建設・保守 (11社)

- 九州林産(株)
- (株)九電ハイテック
- 西日本プラント工業(株)
- 九電産業(株)
- 西日本技術開発(株)
- 西技工業(株)
- (株)ブラズワイヤー
- 西技測量設計(株)
- (株)九電工
- 西九州共同港湾(株)
- (株)九建

資機材等の調達 (7社)

- 九電テクノシステムズ(株)
- 西日本空輸(株)
- 九州高圧コンクリート工業(株)
- 光洋電器工業(株)
- (株)キューヘン
- 誠新産業(株)
- 西日本電気鉄工(株)

電気の卸供給/エネルギー事業 (11社)

- 戸畑共同火力(株)
- 大分共同火力(株)
- 大分エル・エヌ・ジー(株)
- 北九州エル・エヌ・ジー(株)
- 西日本環境エネルギー(株)
- 九電みらいエナジー(株)
- 長島ウインドヒル(株)
- (株)福岡エネルギーサービス
- みやざきバイオマスリサイクル(株)
- (株)福岡クリーンエナジー
- 九州冷熱(株)

情報通信事業 (5社)

- 九州通信ネットワーク(株)
- (株)キューデンインフォコム
- ニシム電子工業(株)
- 九電ビジネスソリューションズ(株)
- (株)コアラ

環境・リサイクル事業 (2社)

- (株)ジェイ・リライツ
- 記録情報マネジメント(株)

生活サービス事業 (16社)

- (株)電気ビル
- (株)キューデン・グッドライフ
- (株)キューデン・グッドライフ東福岡
- (株)キューデン・グッドライフ熊本
- (株)キューデン・グッドライフ鹿児島
- (株)キューデン・グッドライフ福岡浄水
- (株)九電ビジネスフロント
- 九電不動産(株)
- (株)九電オフィスパートナー
- 九州メンテナンス(株)
- 九州高原開発(株)
- (株)九電シェアードビジネス
- (株)九州字幕放送共同制作センター
- (株)オークパートナーズ
- 九州住宅保証(株)
- 伊都ゴルフ土地(株)

環境活動実績 (P41~P48) 集約の考え方

- 各環境活動実績は、集計対象のグループ会社のうち、実績の把握が可能
 なすべての会社(下表)の集計値です。
 (九州電力は含まない)
- 四捨五入の関係上、合計値及び百分率が合わないことがあります。

環境活動実績の集計対象

2013年度	グループ環境経営推進部会 全53社
2014年度	グループ環境経営推進部会 全53社
2015年度	グループ環境経営推進部会 全52社

・ 購入電力に伴うCO₂排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」
 に基づき、国から公表された「電気事業者別CO₂排出係数」を用いて算
 出しています。

用語集をご覧ください

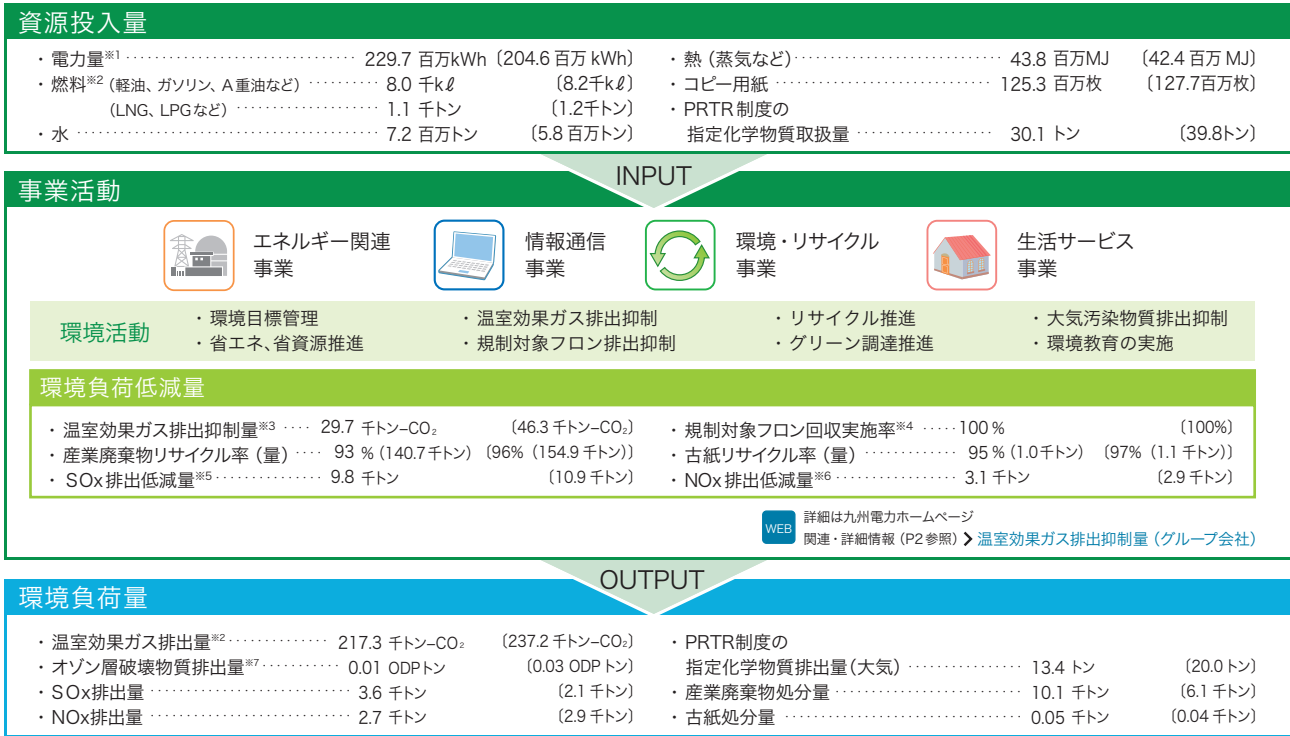
- >> 環境経営
- >> 事業者別 (CO₂) 排出係数
- >> 地球温暖化対策の推進に関する法律

九州電力のグループ会社では、地球温暖化の防止や循環型社会の形成などを企業の社会的責任と認識し、九州電力グループ一体となって環境経営を推進するとともに、各社の事業特性に応じた環境活動に取り組んでいます。

- ① 地球環境問題への取組み42
- ② 循環型社会形成への取組み44
- ③ 地域環境の保全45
- ④ 社会との協調46
- ⑤ 環境管理の推進47

2. 事業活動と環境負荷の状況

下図は、グループ会社での資源や資材の投入から、事業活動を経てどのような環境負荷が発生しているかを表したものです。今後も、この現状を踏まえ、更なる環境負荷低減に努めていきます。



(注) ()内は2014年度の実績値。実績集約の考え方については、P40参照。
 ※1：発電所内電力量等を除く購入電力量を計上。 ※2：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料及びその燃焼に伴う排出量)を除く。
 ※3：グループ会社が事業所に設置した太陽光発電設備等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。 ※4：点検時において法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までガス回収を実施した機器の割合。
 ※5：ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。
 ※6：ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。 ※7：各フロンのオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

3. 環境目標と実績

主要な環境活動について目標を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績			2015年度環境目標	2016年度環境目標		
		2013年度	2014年度	2015年度				
地球環境問題への取組み	オフィス電力	使用量	百万kWh	25.5	23.5	22.8	—	—
		単位面積あたり使用量	kWh/m ²	95.4	90.1	86.7	95程度	91程度
	自家物流輸送(特殊車両等を除く)	低公害車導入比率 ^{※1}	%	69	67.9	68.9	65以上	68以上
		燃料消費率(燃費)	km/ℓ	11.0	11.3	11.1	11.0以上	11.0以上
	SF ₆ (六フッ化硫黄)回収率	機器点検時	%	実績なし ^{※2}	実績なし ^{※2}	99	98以上	98以上
		機器撤去時	%	100	100	100	99以上	99以上
機器点検時の規制対象フロン回収実施率	%	100	100	100	100	100		
上水	使用量	千トン	128.6	127.7	125.3	事務用紙使用量の節約	事務用紙使用量の節約	
		一人あたりの使用量	m ³ /人	151.6	140.5	139.9	—	—
	一人あたりの使用量	m ³ /人	14	13.1	12.9	14以下	14以下	
循環型社会形成への取組み	リサイクル率	産業廃棄物	%	94	96	93	95以上	95以上
		石炭灰	%	100	100	100	100	100
		石炭灰以外	%	81	80	76	80以上	80以上
		古紙	%	91	97	95	93程度	93程度
グリーン調達率	%	88	87	86	86程度	86程度		
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSOx排出量	g/kWh	0.12	0.20	0.34	0.3程度	0.3程度	
	火力発電電力量あたりのNOx排出量	g/kWh	0.24	0.25	0.26	0.3程度	0.3程度	

※1：電気自動車(プラグインハイブリッド車を含む)、ハイブリッド車及び低燃費車のグループ会社保有車両総数に占める割合。
 ※2：設備は保有しているが、機器の点検の実績がないもの。
 ※3：用紙使用量はA4サイズ換算枚数。
 (注) 実績集約の考え方については、P40参照。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > オフィス電力・自家物流輸送(グループ会社)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> >>地球環境問題 >>循環型社会 >>LNG(液化天然ガス) >>LPG(液化石油ガス) >>PRTR(制度) >>指定化学物質 >>温室効果ガス >>規制対象フロン | <ul style="list-style-type: none"> >>グリーン調達 >>産業廃棄物 >>リサイクル率 >>SOx(硫黄酸化物) >>NOx(窒素酸化物) >>オゾン層破壊物質 >>所内電力(量) >>ばい煙 | <ul style="list-style-type: none"> >>脱硝処理 >>低硫黄燃料 >>脱硝処理 >>フロン >>オゾン層破壊係数 >>CFC-11
(トリクロロフルオロメタン) >>自家物流輸送 | <ul style="list-style-type: none"> >>低公害車 >>SF₆(六フッ化硫黄) >>上水 >>石炭灰 >>電気自動車 >>プラグインハイブリッド車 >>低燃費車 >>大気汚染物質 |
|--|---|---|--|

用語集をご覧ください

1. 温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2015年度のCO₂排出量は、電力の使用量が増加したことから、2014年度より増加しました。また、CH₄の排出量が2014年度より増加しているのは、2015年8月の台風15号の影響による発電所の緊急停止に伴い、安全対策として燃料であるLNGガスを大気中に放散したことによるものです。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照) >
温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

温室効果ガス排出量

単位：千トン-CO₂

	2013年度	2014年度	2015年度
CO ₂ (二酸化炭素)※1	152.5	153.3	147.4※2
CH ₄ (メタン)※1	0.1	0.1	2.7
N ₂ O (一酸化二窒素)※1	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	115.3	87.6	67.1
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	0.0	0.0	0.0
合計	267.8	237.2	217.3

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※1：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料の燃焼に伴う排出量)を除く。

※2：2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。

各種エネルギー使用量

	単位	2013年度		2014年度		2015年度			
		会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量		
電力	オフィス	百万kWh	41	25.5	42	23.5	41	22.8	
	工場等	百万kWh	33	178.8	33	181.1	33	206.9	
燃料	車両等	ガソリン等	千kl	44	6.8	45	6.9	45	6.7
	工業用※	冷暖房用	千kl	7	0.1	7	0.1	8	0.3
		A重油等	千kl	12	1.3	12	1.2	10	1.1
		LNG, LPG	千トン	7	1.2	7	1.2	7	1.1
熱	蒸気等	百万MJ	3	38.4	3	42.4	3	43.8	

※：電力会社等への販売電力量分(発電用燃料)を除く。

再生可能エネルギーの積極的な開発・導入

国産エネルギーの有効活用、並びに地球温暖化対策面で優れた電源であることから、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。

グループ各社のうち17社が太陽光・風力・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの設備を導入しており、再生可能エネルギー設備の工事施工や設計業務に関わるグループ会社を含めると、20社が設備導入や開発に携わっています。

西技工業(株)では、再生可能エネルギーの中でも天候の影響が少ない小水力発電の建設に、地点選定から設計・施工まで一貫して取り組んでいます。

2015年6月には、鹿児島県始良市において「日本の滝百選」にも選ばれた龍門の滝などを形成する独特の大地にできた約50mの落差を利用した出力150kWの龍門滝発電所の営業運転を開始しました。営業運転開始による年間のCO₂排出抑制量※は約580トンに相当します。

また、2016年4月には、佐賀県鹿島市において、県営中木庭ダムの放流水を活用した出力196kWの中木庭発電所の営業運転を開始しました。営業運転開始による年間のCO₂排出抑制量※は約660トンに相当します。

※：2015年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。



西技工業(株) 龍門滝発電所(奥は落差約50mの水圧鉄管)

用語集をご覧ください

- >> 温室効果ガス
- >> PFC(パーフルオロカーボン)
- >> 再生可能エネルギー
- >> エコドライブ
- >> SF₆(六フッ化硫黄)
- >> バイオマス
- >> HFC(ハイドロフルオロカーボン)
- >> LNG(液化天然ガス)
- >> CH₄(メタン)
- >> LPG(液化石油ガス)
- >> N₂O(一酸化二窒素)
- >> 地球温暖化

【設備導入状況】

項目	会社数	総設備容量[kW]
太陽光発電	10	69,052
風力発電	3	64,390
地熱発電	1	5,000
水力発電	1	150
バイオマス発電	1	11,350
廃棄物発電	1	29,200
合計	17	179,142

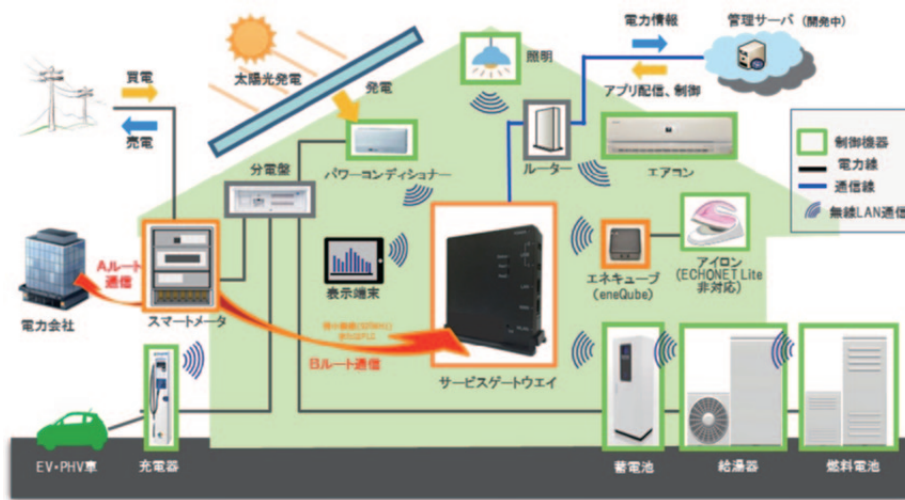
【設備導入・開発に取り組む会社(青文字は設備導入会社)】

- | | | |
|--|---|---|
| <p>太陽光発電(12社)^{※1}</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西日本プラント工業(株) ●崇徳アスティ太陽光発電(株) ●(株)九電工 ●九電テクノシステムズ(株) ●光洋電器工業(株)^{※2} ●(株)キューヘン^{※2} ●誠新産業(株) ●九電みらいエナジー(株) ●ニシム電子工業(株)^{※2} ●(株)電気ビル ●(株)キューデン・グッドライフ東福岡 ●九電不動産(株)^{※2} | <p>風力発電(9社)^{※1}</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西日本プラント工業(株) ●藤尾岳風力発電(株) ●奄美大島風力発電(株) ●西日本技術開発(株) ●(株)九電工 ●誠新産業(株) ●九電みらいエナジー(株) ●長島ウインドヒル(株) ●串間ウインドヒル(株) | <p>廃棄物発電(1社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)福岡グリーンエナジー |
| <p>水力発電(3社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西日本技術開発(株) ●西技工業(株) ●九電みらいエナジー(株) | <p>地熱発電(2社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西日本プラント工業(株) ●九電みらいエナジー(株) | <p>バイオマス発電(4社)^{※1}</p> <ul style="list-style-type: none"> ●西日本プラント工業(株) ●(株)九電工 ●九電みらいエナジー(株) ●みやざきバイオマスサイクル(株) |
- ※1：グループ会社の子会社を含む。
 ※2：九州電力の研究設備として設置。

温室効果ガスの排出抑制への貢献

九電テクノシステムズ(株)では、エアコンや照明機器等の電力使用量の確認や起動・停止などの操作が、スマートフォン等で可能となるネットワーク機器(サービスゲートウェイKECG01-1、エネキューブKEM115-1)を開発し、家庭での効率的なエネルギー管理や快適なくらしに貢献しています。

九電テクノシステムズ(株) HEMS(Home Energy Management System)イメージ図



※「ECHONET Lite」はエコーネットコンソーシアムの登録商標です。
 ※OSGIとは、Open Services Gateway initiativeの略で、遠隔から管理できるJavaベースのサービスプラットフォームです。
 ※eneQube(エネキューブ)は九電テクノシステムズの登録商標です。

2. オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類の回収を徹底するため、グループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制にグループ一体となって取り組んでいます。

2015年度の保有量については、機器の更新等はあったものの、2014年度と同程度となっています。

オゾン層破壊物質保有量等

単位: kg

	2013年度		2014年度		2015年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	16,400	5	6,900	5	6,900
	排出量	300		0		
HCFC	保有量	50,600	24	64,700	23	64,100
	排出量	600		1,400		
ハロン	保有量	6,900	7	6,000	8	6,100
	排出量	0		0		
単位: ODPkg						
オゾン層破壊物質排出量 [※]	330		30		10	

※: 各フロン類のオゾン層破壊係数ODP値を用いて、CFC-11重量相当に換算。

- | | | |
|--|---|---|
| <p>用語集をご覧ください</p> <ul style="list-style-type: none"> >> オゾン層 >> フロン >> CFC(クロロフルオロカーボン) >> HCFC (ハイドロクロロフルオロカーボン) | <ul style="list-style-type: none"> >> ハロン >> オゾン層破壊物質 >> オゾン層破壊係数 >> CFC-11 (トリクロロフルオロメタン) | <ul style="list-style-type: none"> >> ホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS) |
|--|---|---|

廃棄物のゼロエミッション活動の展開

廃棄物については、リサイクル率を目標に設定し、その維持・向上にグループ一体となって努めています。

2015年度の産業廃棄物については、発電所から排出される石炭灰の減少により、発生量は減少しましたが、リサイクル率は93%となり、目標である95%を下回りました。これは、リサイクル処理が困難な特別管理産業廃棄物の発生量が増加したことによるものです。

事務用品等については、環境負荷の少ない物品を優先して調達・購入するグリーン調達に努めています。

廃棄物の発生状況

		2013年度		2014年度		2015年度				
		単位	会社数	実績	会社数	目標	実績	会社数	目標	実績
産業廃棄物	発生量	千トン	38	104.1	39	—	161.0	38	—	150.8
	リサイクル率	%		94		95以上	96		95以上	93
古紙	発生量	千トン	48	0.9	47	—	1.1	46	—	1.0
	リサイクル率	%		91		93程度	97		93程度	95

詳細は九州電力ホームページ

WEB 関連・詳細情報 (P2参照) >
産業廃棄物の種類ごとの発生量及びリサイクル量の実績 (グループ会社)

環境・リサイクル事業

九州電力グループでは、環境・リサイクル事業として、(株)ジェイ・リライツが使用済蛍光灯・乾電池のリサイクル事業を、記録情報マネジメント(株)が機密文書の機密抹消・リサイクル事業を実施しています。

記録情報マネジメント(株)は、文書・記録情報管理全般にわたる、きめ細かいサービスを提供する企業として事業拡大するため、2016年1月に九州環境マネジメント(株)から社名を変更しました。

2015年度は、九州電力グループの機密文書他を約1,500tリサイクルしました。

詳細は九州電力ホームページ

WEB 関連・詳細情報 (P2参照) >
環境リサイクル事業 (株)ジェイ・リライツ、記録情報マネジメント(株)



よかランプ(株)ジェイ・リライツ



認定証(株)ジェイ・リライツ



機密文書回収BOX
(記録情報マネジメント(株))

>>私の環境アクション

バッテリーの再生事業を始めました

九州高圧コンクリート工業(株)

ポール営業本部 はらぐち しんじ
原口 信二

当社では、従来使用後に破棄していたバッテリーの再生事業を展開しています。

バッテリー再生には専用の「バッテリー再生機(SOTO LAB)」を使用し、適切な電圧管理のもとバッテリー内部に特殊な波形の電圧を流すことにより、新品同様の製品に甦らせます。

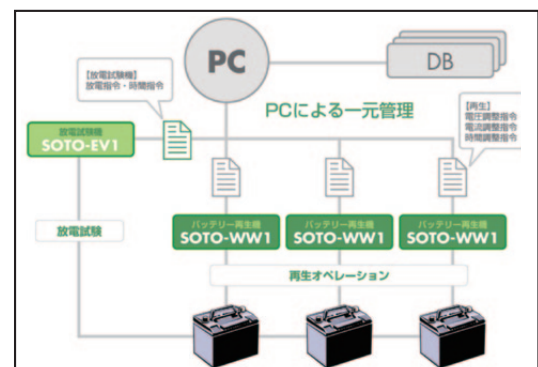
事業化においては、発電所や通信基地局の非常電源用バッテリーで再生試験を幾度も重ね、実用化に向けたデータを蓄積・分析しました。

また、ゴルフ場ではバッテリーを再生した電動カートに支配人と一緒に乗車し、敷地を一周することにより、お客さまと共にその再生効果を確認しました。

当社は、これから本格的な事業化に向け展開を進めていくとともに、バッテリー再生事業を通じて、破棄による有害廃棄物の発生や新たな製造に伴うCO₂の排出を抑制することにより、環境負荷低減や循環型社会形成に貢献していきます。



バッテリー再生システムの構成



用語集をご覧ください

>>循環型社会

>>ゼロエミッション

>>リサイクル率

>>産業廃棄物

>>石炭灰

>>グリーン調達

3 地域環境の保全

環境保全の推進

グループ各社で取り扱う法規制物質等は、関係法令に基づき適正な運用・管理に努めています。PRTR制度における指定化学物質の2015年度の取扱量等については、2014年度より減少しました。排出量の大半は、機器塗装で使用する塗料に含有しているキシレンとトルエンが占めています。

また、PCB廃棄物は、2015年度にトランス1台の無害化処理を行ったことにより、保有していたすべての処理が完了しました。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) >
 PRTR制度の指定化学物質の物質ごとの取扱量等実績・
 発電設備のSOx、NOxの排出量等の実績 (グループ会社)

PRTR制度における指定化学物質の取扱量等

単位：トン

	2013年度		2014年度		2015年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
取扱量		41.1		39.8		30.1
排出量(大気)	7	20.4	7	20.0	8	13.4
移動量		101.2		100.1		74.1

(注) 事業所における年間取扱量1トン以上の第1種指定化学物質(特定第1種指定化学物質は0.5トン以上)について集計(法に基づく届出値を集計)。

PCB廃棄物の保有状況等(2015年度)

単位：台

	処理状況		保有状況	
	会社数	処理量	会社数	保有量
トランス	1	1	—	—
コンデンサ	—	—	—	—
安定器	—	—	—	—
合計	1	1	—	—

大気汚染物質の排出量

単位：千トン

	2013年度		2014年度		2015年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
SOx排出量		1.1		2.1		3.6
NOx排出量	4	2.5	4	2.9	4	2.7

(注) ばい煙量の法的測定義務により、SOx・NOx排出量を把握している会社のデータを計上。

森林の管理

九州林産(株)では、九州電力の社有林管理方針に基づき、2002年から、森林の持つ機能・特性に応じて区分管理を行うゾーニング(「木材を持続的に生産するゾーン」^{かんよう}、「水源涵養を維持・促進するゾーン」や「レクリエーションの場としてのゾーン」等に区分)施業に取り組み、2005年には、九州電力のFSC森林管理認証(適切な森林管理に与えられる世界的な認証)取得へ寄与するなど、社有林の持続可能な管理に努めています。

「レクリエーションの場としてのゾーン」では、風光明媚な山下池周辺に整備した「環境教育の場」を舞台に、九州電力と協働し、次世代層を中心とした環境学習に取り組んでいます(P33参照)。



木材を持続的に生産するゾーン



レクリエーションの場としてのゾーン(森の講話)

用語集をご覧ください

>>PRTR(制度)
 >>キシレン
 >>トルエン
 >>大気汚染物質

>>指定化学物質
 >>PCB(ポリ塩化ビフェニル)
 >>SOx(硫黄酸化物)
 >>NOx(窒素酸化物)

>>ばい煙
 >>社有林
 >>FSC(森林管理協議会)
 >>水源涵養

>>森林管理認証

1. 環境コミュニケーションの推進

グループ会社での環境活動情報については、本レポートをはじめ、九州電力ホームページにおいても公開しています。

グループ会社においても、各社のホームページで環境活動に関する情報の公開に取り組んでいます(2016年3月末現在 グループ環境経営推進部会参加の52社中、34社で公開)。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) ▶ 九電グループ環境経営



2. 地域における環境活動の推進

「九州ふるさとの森づくり」への参加や各社独自の地域清掃活動など、地域における環境活動に積極的に取り組んでいます。

2015年度についても、「響灘・鳥がさえずる緑の回廊」(福岡県北九州市)や「九電の森ひとよし」(熊本県人吉市)、「森と海の再生交流事業植樹祭」(福岡県早良区)など5か所で植樹・育林活動が実施され、グループ会社からも44名が参加しました。



「響灘・鳥がさえずる緑の回廊」
(福岡県北九州市)

>> 私の環境アクション

地域のボランティア活動にも積極的に参加しています。

ニシム電子工業(株) 玄海事業所
第1エンジニアリングGr

す ぎ き けん じ
須 崎 賢 二



平成28年3月、「虹の松原再生・保全活動」に当事業所から5名が参加しました。

当初は、虹の松原での「ゴミ拾い」と思っていたのですが、「松の育成を阻害する草木が生えるのを防ぐために、松葉かきや除草作業の実施が目的」との説明をうけた事で、より一層活動に力が入りました。

終わってみれば、短い時間ではありましたが、見違えるほど美しい姿となった虹の松原を見るにつけ、とても清々しい気持ちとなりました。

また、九電グループをはじめ、各方面から参加された皆さまとの交流も出来て楽しいひとときとなりました。

今後も、日本三大松原の1つでもある虹の松原の「白砂青松」を守る、この再生・保全活動に参加していきたいと思えます。



虹の松原再生・保全活動 ニシム電子工業(株)

用語集をご覧ください

>> 環境コミュニケーション
>> 環境経営

1. 環境マネジメントシステム(EMS)の自立運用

グループ会社は、構築レベルを6段階に分類した九州電力のグループ会社独自の統一的な基準(九電グループにおけるEMS構築基準)に基づき、各社事業特性に応じたEMSを構築し、環境負荷を適切に管理する取組みを推進しています。

EMS構築状況(2016年3月末現在)

EMS構築レベル		会社数
第6段階	ISO14001 認証取得 (全事業所で認証を取得している会社)	2
第5段階	ISO14001 認証取得 (一部の事業所で認証を取得している会社)	6
第4段階	ISO14001 準拠	6
	エコアクション21(EA21) 認証取得	6
第3段階	ISO 簡易システム	9
第2段階	文書による体制、目標管理、 遵守評価の実施	16

(注)第1段階(環境管理体制の整備、環境方針の策定、環境目標の策定):5社。
第1段階のEMSを構築中:2社。

2. 環境に関する法規制遵守の状況

主要な環境関連の法令等に基づく改善勧告・命令や罰則について、2015年度はグループ各社において適用を受けた事例はありません。

今後も引き続き、法令遵守はもとより、企業倫理にのっとった公正で透明性の高い事業活動を推進していくとともに、地元自治体と締結している環境保全協定等についても厳正に遵守していきます。

3. 環境会計

「九電グループにおける環境会計基準」に基づき、各社で算定した環境活動コストを集約しています。

単位:百万円

環境活動の分類	主な活動	2014年度		2015年度		2015年度 環境活動	
		投資	費用	投資	費用	項目	効果
地球環境保全	地球温暖化防止及びオゾン層保護対策等	44.1	1,585.6	164.3	2,146.6	温室効果ガス排出抑制量 ^{*1}	29.7千トン-CO ₂
地域環境保全	大気汚染・水質汚濁・騒音・振動防止対策等	25.0	1,109.2	36.7	1,184.5	SOx排出低減量 ^{*2}	9.8千トン
						NOx排出低減量 ^{*3}	3.1千トン
資源循環	産業廃棄物・一般廃棄物の適正処理等	45.2	1,523.6	9.2	1,785.7	法令、条例に基づき適正に管理	
						産業廃棄物リサイクル量	140.7千トン
						産業廃棄物処分量	10.1千トン
						古紙リサイクル量	1.0千トン
グリーン調達	グリーン調達で発生した差額コスト	—	27.3	—	26.8	一般廃棄物の適正処理	—
環境活動の管理	環境教育、EMS運用管理、環境負荷監視・測定、構内緑化等	—	291.9	—	195.7	出前講演会	2社 106人参加
						取組事例・事業内容紹介	44社 55人参加
						外部認証取得会社	14社
						EMS第2～第4段階への取組会社 ^{*4}	31社
						環境関連データベース項目数	857項目
環境関連研究	廃棄物有効利用等	—	0.2	—	0.2	九州ふるさとの森づくり植樹・育林活動 ^{*5}	44人参加
社会活動	地域の環境活動支援等	—	85.8	—	63.0	地域清掃活動	32社実施
環境損傷対応	公害健康被害補償制度による汚染負荷量賦課金	—	141.2	—	152.0	—	—
合計	—	114.3	4,764.8	210.2	5,554.5		

※1:グループ会社が事業所に設置した太陽光発電設備等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。

※2:ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※3:ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※4:エコアクション21認証取得会社を除く。

※5:グループ会社社員及びその家族の参加者数。

≫環境マネジメントシステム(EMS)
≫ISO14001
≫ISO14001準拠
≫エコアクション21
≫ISO簡易システム
≫環境保全協定

≫環境会計
≫環境活動コスト
≫地球温暖化
≫オゾン層
≫温室効果ガス
≫大気汚染
≫水質汚濁

≫資源循環
≫グリーン調達
≫公害健康被害補償制度
≫汚染負荷量賦課金
≫ばい煙
≫脱硫処理
≫低硫黄燃料

≫脱硝処理
≫SOx(硫黄酸化物)
≫NOx(窒素酸化物)
≫産業廃棄物
≫一般廃棄物

用語集をご覧ください

4. 環境教育・環境情報共有化

グループ各社の環境講演会などの実施により、グループ会社社員の環境意識高揚を図っています。

また、インターネットを活用した「九電グループ情報ネットワーク」に環境関連法規制等の情報を掲載し、グループ会社の環境情報共有化を図っています。



九電テクノシステムズ(株)による事業内容紹介の様子

環境教育・環境情報共有化(2015年度)

項目	対象会社	内容	人数
九州電力社員による出前講演会	西日本プラント工業(株)	環境問題の現状と九州電力グループでの環境経営の取組みについて	74名
	西日本技術開発(株)	産業廃棄物処理について	32名
グループ会社の取組事例・事業内容紹介*	九電テクノシステムズ(株)	九電テクノシステムズが提供するエネルギー管理・節電サービスのご紹介	55名
	誠新産業(株)	環境関連事業のご紹介	

※:2016年3月2日に開催した「グループ環境経営推進部会」の中でご紹介いただきました。

社外からの表彰等

社外からの表彰等(2015年度)

表彰名		対象	実施団体	受賞年月
平成27年度 国土交通行政功労表彰	優良技術者(業務部門) 「平成26年度松原・下笠ダム フォローアップ検討業務」	西日本技術開発(株)	国土交通省 筑後川ダム総合管理事務所	2015年7月
	優良施工業者(業務部門) 「平成26年度松原・下笠ダム 水辺の国勢調査(両生類他)業務」	西日本技術開発(株)	国土交通省 筑後川ダム総合管理事務所	2015年7月
平成27年度若手技術者交流会	最優秀賞	西日本技術開発(株)	(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部	2015年11月
一般財団法人福岡県環境計量証明事業協会会長表彰		九電産業(株) 環境部社員	(一財)福岡県環境計量証明事業協会	2015年11月
エコアクション21 環境活動レポート大賞・九州	大賞	九州林産(株)	NPO法人九州環境カウンセラー協会	2015年11月
	廃棄物部門賞	光洋電器工業(株)		
環境コミュニケーション大賞 (環境活動レポート部門)	優良賞	九州林産(株)	環境省、(一財)地球・人間環境フォーラム	2016年2月
		光洋電器工業(株)		

用語集をご覧ください

>>環境経営

>>環境コミュニケーション

>>エコアクション21

>>産業廃棄物